

職業実践専門課程の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地																																	
東京ブレーメン動物専門学校		平成28年12月26日	野上 耕一		〒114-0023 東京都北区滝野川7-3-9-14 (電話) 03-6903-6601																																	
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地																																	
学校法人野上学園		平成19年9月20日	野上 耕一		〒770-0021 徳島県徳島市佐古一番町5番4号 (電話) 088-652-5899																																	
分野	認定課程名	認定学科名			専門士	高度専門士																																
文化・教養	文化教養専門課程	ペットビジネス学科 (総合コース)			平成31年文部科学省告示第3号	-																																
学科の目的	適切な知識と優れた技術を持った人材を育成し、動物業界全体の質向上と社会の発展に寄与する。																																					
認定年月日	平成28年12月26日																																					
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																														
	2年	2400時間	750時間	0時間	1650時間	0時間	0時間	0時間																														
生徒総定員		生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																																
80人内数		48	-	5人内数	5人	10人内数																																
学期制度	■前期:4月1日から9月30日 ■後期:10月1日から3月31日			成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 各科目定期試験の結果平均値が上位より優・良・可・不可の4段階で表示し、不可を不合格、その他を合格とする。科目によって合格、不合格で表示することが出来るものとする。																																	
長期休み	■学年始め:4月1日 ■夏季:6週間以内で学校長が定める期間 ■冬季:2週間以内で学校長が定める期間 ■春季:2週間以内で学校長が定める期間			卒業・進級条件	卒業条件:成績評価基準に基づき、学校長が課程修了の認定を行う。進級条件:成績評価基準に基づき、学校長が進級可否の認定を行う。																																	
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 ■長期欠席者への指導等の対応 面談、自宅訪問等			課外活動	■課外活動の種類 (例) 学生自治組織・ボランティア・学園祭等の実行委員会等 動物愛護イベント、近隣清掃等のボランティア活動 ■ゼミ活動: 無																																	
就職等の状況※2	■主な就職先・業界等(令和元年度卒業生) ペットショップ、ペット総合企業等 ■就職指導内容 履歴書添削、模擬面接、インターンシップ先の紹介等			主な学修成果 (資格・検定等) ※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (令和2年度卒業生に関する令和3年5月1日時点の情報)																																	
	<table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>C級グルーマー</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>B級プロフェッショナルライセンス</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	C級グルーマー	③	8人	8人	B級プロフェッショナルライセンス	③	3人	3人	愛玩動物飼養管理士	③	8人	8人	<table border="1"> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種別</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> <tr> <td>C級グルーマー</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>B級プロフェッショナルライセンス</td> <td>③</td> <td>3人</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>愛玩動物飼養管理士</td> <td>③</td> <td>8人</td> <td>8人</td> </tr> </table>				資格・検定名	種別	受験者数	合格者数	C級グルーマー	③	8人	8人	B級プロフェッショナルライセンス	③	3人	3人	愛玩動物飼養管理士	③
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																			
C級グルーマー	③	8人	8人																																			
B級プロフェッショナルライセンス	③	3人	3人																																			
愛玩動物飼養管理士	③	8人	8人																																			
資格・検定名	種別	受験者数	合格者数																																			
C級グルーマー	③	8人	8人																																			
B級プロフェッショナルライセンス	③	3人	3人																																			
愛玩動物飼養管理士	③	8人	8人																																			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 令和2年4月1日時点において、在学者24名(令和2年4月1日入学者を含む) 令和3年3月31日時点において、在学者23名(令和3年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更に伴うもの ■中途退学防止・中退者支援のための取組 長期欠席者への面談。経済的支援として分割制度の拡充や学費の納付延納等。			■中退率 4%																																		
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有・無 一人暮らし支援奨学金																																					
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有(無)																																					
当該学科のホームページURL	URL:https://tkba.ac.jp/course/																																					

(留意事項)

- 公表年月日(※1)
最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前回公表年月日は空欄としてください
- 就職等の状況(※2)
「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科生第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。
(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について
①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。
②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者は含まれません。
③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。
※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。
(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について
①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業者数のうち就職者総数の占める割合をいいます。
- 主な学修成果(※3)
認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1. 「専攻分野に関する企業、団体等（以下「企業等」という。）との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課																																			
<p>(1) 教育課程の編成（授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。）における企業等との連携に関する基本方針又は職種に相当年数携わり、実務に関する知識・技術について知見のある企業や施設等の管理者又は職員と連携する。具体的には授業内容・方法の改善を話し合い、講義及び実習に活かしていく。目標として自ら学ぶ意欲と実践力のある学生を育成することを旨とする。</p> <p>(2) 教育課程編成委員会等の位置付け</p> <p>学園理事会、監事、評議員会とは別に、独立して存在するものとする。教育課程編成委員会規則に基づき、会議を開催し、学生の育成に必要なカリキュラムやその他必要事項の取り決めを行う。</p> <p>学校長は、毎年度、委員会での提言を反映した基準にもとづき、教職員の意見を踏まえつつ教育課程を編成するものとする。</p> <p>(3) 教育課程編成委員会等の全委員の名簿</p> <p style="text-align: right;">令和元年9月2日現在</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>名前</th> <th>所属</th> <th>任期</th> <th>種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>野上 耕一</td> <td>東京ブレイメン動物専門学校 校長</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>野上 和子</td> <td>学校法人野上学園 理事</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td></td> </tr> <tr> <td>中 徹</td> <td>NPO法人日本社会福祉愛犬協会 理事</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td>①</td> </tr> <tr> <td>貴志 泰則</td> <td>株式会社貴志商店 代表取締役社長</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>永木 ユミ子</td> <td>ローズサマンサ 代表</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>小松 敏之</td> <td>いぬのがっこうKOMATU 代表</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td>③</td> </tr> <tr> <td>軽部 真紀</td> <td>かるべ動物病院 院長</td> <td>平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）</td> <td>③</td> </tr> </tbody> </table> <p>※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。</p> <p>(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期 (年間の開催数及び開催時期) 年2回以上の開催、時期は春季、秋季を基本とする (開催日時(実績)) 2019年4月1日 13:00～15:00 2019年11月30日 14:00～16:00 令和2年6月6日 14:00～15:00</p> <p>(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況 ①2019年度第1回教育課程編成委員会では動物看護師の国家資格化へ向けてのカリキュラムをより実践的なものにする事と動物病院との連携を強化することが提言された。これらを今後の検討課題とする。 ②2019年度第2回教育課程編成委員会では引き続き、動物看護師の国家資格化について、3年制学科設置のための各種準備について提言を取り入れていくことを確認。また少子化にむけて、中長期的な学生募集の方針転換について報告する。 ③令和2年度第1回教育課程編成委員会ではコロナウイルス対策が大きな議題として取り上げられた。学科授業について、ネット環境の整備推進、学生の通信環境サポートの制度化などの意見が取り入れられた。一方、実習授業について実践力を養ううえで必須のカリキュラムであり、今後の教職員会議でより具体的な活動方針、実施計画を決定していくことが確認された。</p>				名前	所属	任期	種別	野上 耕一	東京ブレイメン動物専門学校 校長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）		野上 和子	学校法人野上学園 理事	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）		中 徹	NPO法人日本社会福祉愛犬協会 理事	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	①	貴志 泰則	株式会社貴志商店 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③	永木 ユミ子	ローズサマンサ 代表	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③	小松 敏之	いぬのがっこうKOMATU 代表	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③	軽部 真紀	かるべ動物病院 院長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③
名前	所属	任期	種別																																
野上 耕一	東京ブレイメン動物専門学校 校長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）																																	
野上 和子	学校法人野上学園 理事	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）																																	
中 徹	NPO法人日本社会福祉愛犬協会 理事	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	①																																
貴志 泰則	株式会社貴志商店 代表取締役社長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③																																
永木 ユミ子	ローズサマンサ 代表	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③																																
小松 敏之	いぬのがっこうKOMATU 代表	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③																																
軽部 真紀	かるべ動物病院 院長	平成31年4月1日～令和4年3月31日（3年間）	③																																
2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係																																			
<p>(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針 現場で使用される機材等の扱い方や、現場で必要とされる知識・技術の学習の為、経験豊富な技術者を講師として招き、また積極的に企業(動物病院、訓練施設、トリミング美容室、ペットショップ等)へのインターンシップをカリキュラムに導入する</p> <p>(2) 実習・演習等における企業等との連携内容 授業科目の担当教員と派遣された講師が事前に打ち合わせを行い、指導方針、実習内容、生徒の学習成果の達成度に対する評価指標について定める。実際の現場で求められるスピードや技術、コミュニケーション能力を一般家庭からお預かりするモデル犬を使つてのグルーミング実習、トレーニング方法、診察実習など現役の講師からの直接指導で実践的な技術を習得する。実習終了後、企業側講師による総合学修評価を踏まえて、担当教員が成績評価・単位認定を行う。</p> <p>(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>科目名</th> <th>科目概要</th> <th>連携企業等</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>グルーミング学Ⅰ</td> <td>犬・猫の抱き方、シャンプー、カット方法等、基本的なグルーミング方法についての学科</td> <td>アスペン</td> </tr> <tr> <td>グルーミング実習Ⅰ</td> <td>校内で行われている実習のステップアップとして、実際の現場で求められるスピードや技術を現役の講師による直接指導で実践的な技術を習得する。</td> <td>アスペン</td> </tr> <tr> <td>動物行動学</td> <td>犬学・猫学をベースに行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動についての学問</td> <td>株式会社貴尚ルーモドッグスクール</td> </tr> <tr> <td>動物形態機能学</td> <td>動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解する。病的変化についても学ぶ。</td> <td>上野原どうぶつ病院</td> </tr> <tr> <td>動物感染症学</td> <td>微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。</td> <td>上野原どうぶつ病院</td> </tr> </tbody> </table>				科目名	科目概要	連携企業等	グルーミング学Ⅰ	犬・猫の抱き方、シャンプー、カット方法等、基本的なグルーミング方法についての学科	アスペン	グルーミング実習Ⅰ	校内で行われている実習のステップアップとして、実際の現場で求められるスピードや技術を現役の講師による直接指導で実践的な技術を習得する。	アスペン	動物行動学	犬学・猫学をベースに行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動についての学問	株式会社貴尚ルーモドッグスクール	動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解する。病的変化についても学ぶ。	上野原どうぶつ病院	動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。	上野原どうぶつ病院														
科目名	科目概要	連携企業等																																	
グルーミング学Ⅰ	犬・猫の抱き方、シャンプー、カット方法等、基本的なグルーミング方法についての学科	アスペン																																	
グルーミング実習Ⅰ	校内で行われている実習のステップアップとして、実際の現場で求められるスピードや技術を現役の講師による直接指導で実践的な技術を習得する。	アスペン																																	
動物行動学	犬学・猫学をベースに行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動についての学問	株式会社貴尚ルーモドッグスクール																																	
動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みを形態学、機能学、生化学の面から学び、生命体としての動物を細胞、組織、臓器レベルの各階層で理解する。病的変化についても学ぶ。	上野原どうぶつ病院																																	
動物感染症学	微生物や寄生虫の分類、生物学的特性、伝播様式や発病のメカニズムについて学び、検査や診断、衛生管理、予防・治療法など感染症対策の基礎を習得する。	上野原どうぶつ病院																																	
連携する企業などの総数＝3																																			

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係
(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針 ペットビジネスの多様なニーズに対応するため、教員研修規程に定められたとおり、現在就いている職又は将来就くことが予想される職の職務と責任の遂行に必要な知識、技能等を習得させ、その他その遂行に必要な職員能力、資質等を向上させることを目的として、教職員に研修を受けるよう取り組んでいる。
(2) 研修等の実績 ① 専攻分野における実務に関する研修等 研修名「動物取扱業取扱責任者研修」(連携企業等:東京都福祉保健局) 期間:令和元年9月17日(火) 対象:ペットビジネス学科教職員 内容:改正動物愛護管理法の研修会に参加し、動物取扱業には欠かせない法知識や動物の取り扱い方に関する知識などの習得を目指す。 研修名「獣医師・動物看護師研修」(連携企業等:日本臨床獣医学フォーラム) 期間:令和元年9月25日(水)～29日(日) 対象:ペットビジネス学科教員 内容:日本臨床獣医学フォーラムにて、国内外の講師が4日間 8 ストリームのプログラムで獣医師と動物看護師&トリマー向けのセミナーを実施 研修名「飼育学研修」(連携企業等:ムーアパークカレッジ) 期間:令和元年10月30日(水)～11月5日(火) 対象:ペットビジネス学科教員 内容:Moorpark College(アメリカ:カリフォルニア州)の併設野生動物園にて動物飼育学に関する研修を行う。
② 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「話し方講習」(連携企業等:アナウンスグループカインド) 期間:令和2年5月16日(水)・12月11日(水) 対象:ペットビジネス学科全教職員 内容:フリーアナウンサーを講師に招き、話し方に関する講座を受講する。発声方法から話の組み立て、要点のまとめ方等、授業に必要なスキルを身につける。 研修名「主体的な学びを育む学校づくり」(連携企業等:リクルート・マーケティングパートナーズ) 期間:令和2年7月3日(水) 対象:ペットビジネス学科全教職員 内容:ワークショップ、学ぶ意欲を向上させるための、各プロセス対応。学校・学年で成績評価が低い構成要素、課題に関連した構成要素についての検証と対策等。
(3) 研修等の計画 ① 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「ビションフリーゼグルーミング講習」(連携企業等:ジャパンケネルクラブ) 期間:令和3年8月予定 対象:ペットビジネス学科トリマー教員 内容:ビションフリーゼのトリミングとグローバルな視点からの見解を、ワークショップ形式で実施。近年大幅に増加している犬種であるため、スタンダードだけでなく、グルーミング、ブリーディング、ハンドリングを含めた内容。 研修名「動物取扱業取扱責任者研修」(連携企業等:東京都福祉保健局) 期間:令和3年9月予定 対象:ペットビジネス学科教職員 内容:動物の愛護及び管理に関する法令、飼養施設の管理に関する方法、動物の管理に関する方法、動物取扱業の業務の実施に関すること 研修名「獣医師・動物看護師研修」(連携企業等:日本臨床獣医師会フォーラム) 期間:令和2年9月19日(土)～22日(火) (オンライン) 対象:ペットビジネス学科教員 内容:国内外の著名講師による4日間 8 ストリームのプログラムで獣医師と動物看護師&トリマー向けのセミナーを実施 研修名「飼育学研修」(連携企業等:ムーアパークカレッジ) 期間:令和3年11月予定 対象:ペットビジネス学科教職員 内容:Moorpark College(アメリカ:カリフォルニア州)の併設野生動物園にて動物飼育学に関する研修を行う。
② 指導力の修得・向上のための研修等 研修名「主体的な学びを育む学校づくり」(連携企業等:リクルート・マーケティングパートナーズ) 期間:令和3年9月予定 対象:ペットビジネス学科全教職員 内容:ワークショップ、学ぶ意欲を向上させるための、各プロセス対応。学校・学年で成績評価が低い構成要素、課題に関連した構成要素についての検証と対策等。 研修名「話し方講習」(連携企業等:アナウンスグループカインド) 期間:令和2年11月10日(火)、12月8日(火) 対象:ペットビジネス学科全教職員 内容:フリーアナウンサーを講師に招き、話し方に関する講座を受講する。発声方法から話の組み立て、要点のまとめ方等、授業に必要なスキルを身につける。
(別途、以下の資料を提出) * 研修等に係る諸規程 * 研修等の実績(推薦年度の前年度における実績) * 研修等の計画(推薦年度における計画)

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。

(1) 学校関係者評価の基本方針

自己評価報告書に基づき、教職員の意見聴取および学校施設等の視察を行い、学校の設定した評価項目の達成および取り組み状況を点検する。また自己評価をもとに、その内容について分析・考察を行い、今後の課題と改善策を示して、HP等で公開し、教育活動・学校運営の質向上をはかる。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受入れ募集	(7) 学生募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会において教育活動では、教員の専門性における担当科目と時間数の配分、授業準備の時間の体制整備に課題があると指摘された。そのため、教員間の相互理解のために科目シラバスの周知や教育計画のヒアリングを行うことで指導内容の重複やばらつきを防いでいる。さらに教員間協力における教授資料の共有化を推進し、準備時間の効率化を図っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

令和元年9月2日現在

名前	所属	任期	種別
貴志 泰則	株式会社貴志商店 代表取締役	平成31年4月1日～令和4年3月31日(3年間)	企業等委員
永木 ユミ子	ローズサマンサ オーナー	平成31年4月1日～令和4年3月31日(3年間)	企業等委員
矢野 章太	やの犬 訓練所 代表	平成31年4月1日～令和4年3月31日(3年間)	企業等委員
服部 有香	アニマルアシストソレイユ	平成31年4月1日～令和4年3月31日(3年間)	卒業生

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他()

URL:<https://tkba.ac.jp/jouhoukoukai.html>

公表時期: 令和2年7月10日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、企業等関係者に情報提供することで相互理解が促され、学校内外の実習、就職指導など企業等との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につながる、との視点から情報提供を進めていく。また、情報提供等に当たっては、学生や保護者、関係業界等が求める情報の内容を十分把握し、求めに応じた情報を適切に示していくことに留意する。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	(1) 学校の概要、目標及び計画
(2) 各学科等の教育	(2) 各学科等の教育
(3) 教職員	(3) 教職員
(4) キャリア教育・実践的職業教育	(4) キャリア教育・実践的職業教育
(5) 様々な教育活動・教育環境	(5) 様々な教育活動・教育環境
(6) 学生の生活支援	(6) 学生の生活支援
(7) 学生納付金・修学支援	(7) 学生納付金・修学支援
(8) 学校の財務	(8) 学校の財務
(9) 学校評価	(9) 学校評価
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

https://tkba.ac.jp/kihonjouhou_tokyo.pdf

(別紙様式4-3)

授業科目等の概要

(文化教養専門課程ペットビジネス学科 総合コース) 令和元年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング学Ⅰ	犬・猫の抱き方・扱い方、シャンプー、カット方等、基本的なグルーミング	1通	15		○			○		○		○
○	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミング学Ⅰを基に実習を行う	1通	270				○	○		○		○
○			動物形態機能学	比較解剖学・血液学・免疫学・携帯機能等が含まれる	1通	120		○			○		○	○	○
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学	1通	30		○			○		○	○	
○			動物病理学	産業	1通	30		○			○		○		
○			動物薬理学	動物薬理学、薬物学	1通	60		○			○		○		
○			動物感染症学	内部寄生虫・外部寄生虫・微生物	1通	90		○			○		○		○
○			動物医療関連法規	獣医師法・狂犬病予防法・動愛法・鳥獣保護法・薬物関連法規・家畜伝染病・予防法・その他関連法規	1通	30		○			○		○		
○			公衆衛生学	人獣共通感染症・滅菌・消毒・動物防疫学	1通	60		○			○		○		
○			動物人間関係学	HAB、AAA、AAT、AAEなどの概論	1通	30		○			○		○		
○			動物福祉・倫理	獣医療倫理、動物福祉	1通	30		○			○		○		
○			動物行動学	犬学・猫学、行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動	1通	30		○			○		○	○	○
○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法	1前	60		○			○		○	○	
○			産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼育管理法	1通	45		○			○		○	○	
○			実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法	1後	15		○			○		○	○	
○			野生動物学	日本の野生動物の種類と保全	1後	30		○			○		○	○	
○			飼育管理学	エキゾチックアニマル、実験動物、産業動物、野生動物、展示動物	1通	30		○			○		○		
○			経営学・ビジネススキル	社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する	1後2前	30		○			○		○		
	○		犬種別ペットクリップ	各犬種に適したカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	1通2通	300		△		○	○		○	○	○
	○		ハンドリング学Ⅰ	ドッグショーにて基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学ぶ。	1後	30		△		○	○		○		
	○		ペット造形学・美学Ⅰ	ペット犬種のデッサンや粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う。	1後	120		△		○	○		○		
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学ぶ	1前	60		○			○		○		
○			内科動物看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			外科動物看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			臨床動物看護学総論	哺育、在宅・訪問管理	1通	30		○			○		○		
○			動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得	1通	60		○			○		○		
○			動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内におけるコミュニケーション	1通	60		○			○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	1通	90		△		○	○		○		

○	ドッグトレーニング理論Ⅰ	ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。また動物行動学をもとに具体的なトレーニング方法の組み立て方を学ぶ。	1通	30	○	○	○	○	○	○
○	服従訓練Ⅰ	ドッグトレーニングを実践的に学び、具体的な行動修正方を習得する。	1通	180	△	○	○	○	○	○
○	アジリティⅠ	ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び、運動能力の向上を目指す。	1通	120	△	○	○	○	○	○
○	総合トレーニング実習Ⅰ	トレーニングの組み立てからクライアント教育までを総合的に組み立て、実践する	1通	120	△	○	○	○	○	○
○	動物飼育実習Ⅰ	コンパニオンアニマルの適切な飼育法、ドッグトレーニング	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	動物飼育実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用	2通	45	△	○	○	○	○	○
○	グルーミング学Ⅱ	グルーミング技術の応用に関する高い知識の習得	2前	15	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング実習Ⅱ	グルーミング学Ⅱを基に実習を行う	2通	420		○	○	○	○	○
○	ボランティア学	動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。また周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する	2前	15	△	○	○	○	○	○
○	犬種別ショーカットⅠ	各犬種のショーカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	2通	180	△	○	○	○	○	○
○	犬種別ショーカットⅡ	ブードルのショーカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	2通	180	△	○	○	○	○	○
○	ハンドリング学Ⅱ	トッグショーにて必要なハンドリング技術を学び、マナー・ショーマンシップを身につける	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	ペット造形学・美学Ⅱ	ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	臨床動物看護学実習	検体検査・生体検査	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	臨床動物看護学各論	エマージェンシー、救急救命疾患	2前	120	○	△	○	○	○	○
○	内科動物看護学実習Ⅰ	診療補助、輸液管理、主な処置法、シリンジの扱い、衛生管理・調剤	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	内科動物看護学実習Ⅱ	看護技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物臨床検査学実習Ⅰ	検体処理、検査機器の取扱い、血液検査、尿検査、便検査、細胞診、微生物学的検査、レントゲン、超音波、ECG等	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物臨床検査学実習Ⅱ	検査技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	外科動物看護学実習Ⅰ	手術関連業務、術前後の看護、麻酔・鎮静、麻酔モニタリング	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	外科動物看護学実習Ⅱ	外科に関する技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物看護総合実習	動物病院実習	2通	180	△	○	○	○	○	○
○	ドッグトレーニング理論Ⅱ	ドッグトレーニング理論Ⅰの応用	2通	30	○	○	○	○	○	○
○	服従訓練Ⅱ	服従訓練Ⅰの応用	2通	360	△	○	○	○	○	○
○	アジリティⅡ	アジリティⅠの応用	2通	270	△	○	○	○	○	○
○	総合トレーニング実習Ⅱ	総合トレーニング実習Ⅰの応用	2通	270	△	○	○	○	○	○
合計			55 科目	2400単位時間(単位)						
卒業要件及び履修方法						授業期間等				
卒業条件：各科目について出席時数が授業時数の3分の2に達しており、担当教員の成績評価を元に学校長が修了の認定をする。 (留意事項) 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。						1学年の学期区分		2期		
						1学期の授業期間		15週		

授業科目等の概要															
(文化教養専門課程ペットビジネス学科 総合コース) 令和元年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			グルーミング学Ⅰ	犬・猫の抱き方・扱い方、シャンプー、カット方等、基本的なグルーミング	1通	15		○			○		○		○
○	○		グルーミング実習Ⅰ	グルーミング学Ⅰを基に実習を行う	1通	270				○	○		○		○
○			動物形態機能学	比較解剖学・血液学・免疫学・携帯機能等が含まれる	1通	120		○			○		○	○	○
○			動物繁殖学	繁殖に関わる形態機能学	1通	30		○			○		○	○	
○			動物病理学	産業	1通	30		○			○		○		
○			動物薬理学	動物薬理学、薬物学	1通	60		○			○		○		
○			動物感染症学	内部寄生虫・外部寄生虫・微生物	1通	90		○			○		○		○
○			動物医療関連法規	獣医師法・狂犬病予防法・動愛法・鳥獣保護法・薬物関連法規・家畜伝染病・予防法・その他関連法規	1通	30		○			○		○		
○			公衆衛生学	人獣共通感染症・滅菌・消毒・動物防疫学	1通	60		○			○		○		
○			動物人間関係学	HAB、AAA、AAT、AAEなどの概論	1通	30		○			○		○		
○			動物福祉・倫理	獣医療倫理、動物福祉	1通	30		○			○		○		
○			動物行動学	犬学・猫学、行動の意義と機構、しつけ・トレーニング・問題行動	1通	30		○			○		○	○	○
○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法	1前	60		○			○		○	○	
○			産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼育管理法	1通	45		○			○		○	○	
○			実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法	1後	15		○			○		○	○	
○			野生動物学	日本の野生動物の種類と保全	1後	30		○			○		○	○	
○			飼育管理学	エキゾチックアニマル、実験動物、産業動物、野生動物、展示動物	1通	30		○			○		○		
○			経営学・ビジネススキル	社会人として必要とされる経営・一般教養や就職活動に必要なスキルを習得する	1後2前	30		○			○		○		
	○		犬種別ペットクリップ	各犬種に適したカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	1通2通	300		△			○	○	○	○	○
	○		ハンドリング学Ⅰ	ドッグショーにて基本的な知識を習得し、犬の基本的な見せ方、ハンドリング、歩様について学ぶ。	1後	30		△			○	○	○		
	○		ペット造形学・美学Ⅰ	ペット犬種のデッサンや粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う。	1後	120		△			○	○	○		
○			動物看護学概論	獣医療の歴史や動物看護師の職業倫理について学ぶ	1前	60		○			○		○		
○			内科動物看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ	1通	30		○			○		○		
○			外科動物看護学	外科診療の補助に必要な基礎知識を学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			臨床動物看護学総論	哺育、在宅・訪問管理	1通	30		○			○		○		
○			動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶ	1通	60		○			○		○		
○			動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得	1通	60		○			○		○		
○			動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内におけるコミュニケーション	1通	60		○			○		○		
○			動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	1通	90		△			○	○	○		

○	ドッグトレーニング理論Ⅰ	ヒトと犬が共生していくに必要な方法を習得する。また動物行動学をもとに具体的なトレーニング方法を組み立て方を学ぶ。	1通	30	○	○	○	○	○	○
○	服従訓練Ⅰ	ドッグトレーニングを実践的に学び、具体的な行動修正方を習得する。	1通	180	△	○	○	○	○	○
○	アジリティⅠ	ドッグスポーツであるアジリティ競技の基礎を学び、運動能力の向上を目指す。	1通	120	△	○	○	○	○	○
○	総合トレーニング実習Ⅰ	トレーニングの組み立てからクライアント教育までを総合的に組み立て、実践する	1通	120	△	○	○	○	○	○
○	動物飼育実習Ⅰ	コンパニオンアニマルの適切な飼育法、ドッグトレーニング	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	動物飼育実習Ⅱ	動物飼育に関する技術の実践と応用	2通	45	△	○	○	○	○	○
○	グルーミング学Ⅱ	グルーミング技術の応用に関する高い知識の習得	2前	15	○	○	○	○	○	○
○	グルーミング実習Ⅱ	グルーミング学Ⅱを基に実習を行う	2通	420		○	○	○	○	○
○	ボランティア学	動物愛護センターや民間保護団体を通じ動物のお手入れやしつけの活動を行う。また周辺地域の清掃活動を定期的に行い社会貢献の意味を学習する	2前	15	△	○	○	○	○	○
○	犬種別ショーカットⅠ	各犬種のショーカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	2通	120	△	○	○	○	○	○
○	犬種別ショーカットⅡ	ブードルのショーカットスタイルを学び、実習を通じてその形に仕上げる技術を習得する	2通	150	△	○	○	○	○	○
○	ハンドリング学Ⅱ	トッグショーにて必要なハンドリング技術を学び、マナー・ショーマンシップを身につける	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	ペット造形学・美学Ⅱ	ショー犬種のデッサンや、粘土を使った造形を通じてイメージ能力を養う	2通	30	△	○	○	○	○	○
○	臨床動物看護学実習	検体検査・生体検査	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	臨床動物看護学各論	エマージェンシー、救急救命疾患	2前	120	○	△	○	○	○	○
○	内科動物看護学実習Ⅰ	診療補助、輸液管理、主な処置法、シリンジの扱い、衛生管理・調剤	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	内科動物看護学実習Ⅱ	看護技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物臨床検査学実習Ⅰ	検体処理、検査機器の取扱い、血液検査、尿検査、便検査、細胞診、微生物学的検査、レントゲン、超音波、ECG等	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物臨床検査学実習Ⅱ	検査技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	外科動物看護学実習Ⅰ	手術関連業務、術前後の看護、麻酔・鎮静、麻酔モニタリング	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	外科動物看護学実習Ⅱ	外科に関する技術の実践と応用	2通	90	△	○	○	○	○	○
○	動物看護総合実習	動物病院実習	2通	180	△	○	○	○	○	○
○	ドッグトレーニング理論Ⅱ	ドッグトレーニング理論Ⅰの応用	2通	30	○	○	○	○	○	○
○	服従訓練Ⅱ	服従訓練Ⅰの応用	2通	360	△	○	○	○	○	○
○	アジリティⅡ	アジリティⅠの応用	2通	270	△	○	○	○	○	○
○	総合トレーニング実習Ⅱ	総合トレーニング実習Ⅰの応用	2通	270	△	○	○	○	○	○
合計			55 科目	2400単位時間(単位)						
卒業要件及び履修方法						授業期間等				
卒業条件：各科目について出席時数が授業時数の3分の2に達しており、担当教員の成績評価を元に学校長が修了の認定をする。						1学年の学期区分		2期		
						1学期の授業期間		15週		
(留意事項)										
1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。										
2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。										